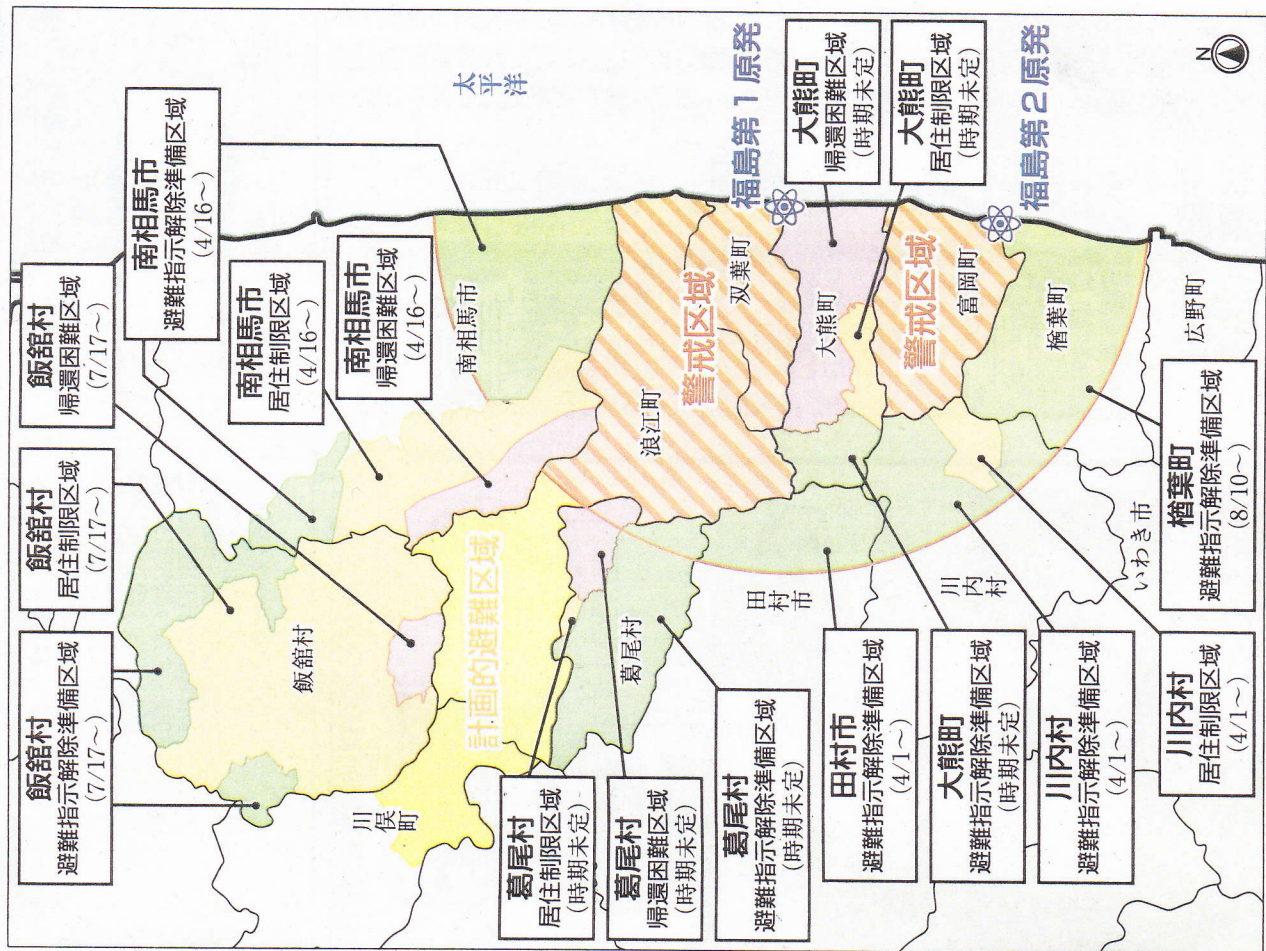


除染

富岡など

帰らない

東京電力福島第一原発から約100キロ、比較的高い放射能レベルを抱える一部地域を「帰還困難区域」への重層化が懸念される。富岡、大熊、浪江は、今後5年間は帰還しないことを宣言した。長期避難に伴う町民の危機感や、早期帰還を望む住民の古里への思い、さらなる行政の責務がある。各町は苦渋の選択を



持続対応急務

仮の町

東日本大震災と東京電力第一原発事故の発生から11日、1年7カ月となった。同原発から20キロ圏の警戒区域などの避難町村は、一部に今後も長期にわたり帰還できないとの選択を固め、周辺市町村などに住民が集団で一時的に移り住む町外コミュニティー（仮の町）構想の議論を本格化させた。実現に向けた避難、受け入れ双方の個別協議が始まった。

いわき周辺に希望集中

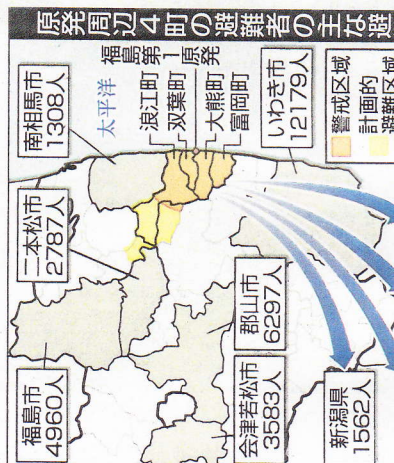
■富岡町

富岡町は、町外コミュニティーを富岡町サテライト計画として基本方針を決定した。サテライト（仮の町）候補とする町内の低線量地

区や、いわき、郡山両市の3カ所に災害公営住宅などを整備する方針だ。町が7、8月に行った町民意向調査では、6割以上がいわき市周辺での居住を望み、富岡町内や近隣町村

区や、いわき、郡山両市の3カ所に災害公営住宅などを整備する方針だ。町が7、8月に行った町民意向調査では、6割以上がいわき市周辺での居住を望み、富岡町内や近隣町村

希望者と合わせると約80%が行っているが、希望数には達していない。郡山市の仮設住宅のうち富岡町の女性(79)が、仮設住宅はバラバラで、仮の町は行政による程度の規模に固



分散型中心に個別協議